

第4学年東組 国語科学習指導案

学習指導者 中田 祐二

1 単元 筆者の説明の仕方を評価しよう

2 単元について

(1) 「思考力」育成に向かう思考活動

【該当する教科の「思考力」】

ことばとその意味，ことばとことばの関係，ことばとその使用者について，自分の知識や経験と結びながら熟考・評価する力

【本単元の「思考力」】

中心文とその他の文のつながりに着目して，筆者の説明の仕方を熟考・評価する力

【メタ認知的知識 = 思考様式について】	【期待するメタ認知的活動の様相】
<p data-bbox="175 801 906 840">中心文が他の文をまとめているかどうか確かめる</p> <p data-bbox="159 842 951 1133">本単元でねらう「思考力」育成のためには，上記思考様式が必要である。なぜならば，中心文とその他の文に「まとめている・まとめられている」の関係が成り立っている時，それは論理的に説明されていると判断することができるからである。その「まとめている・まとめられている」関係とは，他の文が中心文を「くわしく説明」したり，その「理由」を挙げたり，「例」を挙げたりしている場合をさす。</p> <p data-bbox="159 1135 951 1424">そして，この3つの観点で叙述の関係を見る際には，形式面と内容面の確かめが必要である。形式面での確かめとは，「『なぜならば～』と書いてあるから，これは理由の文だ」というように言語表記をもとにつながりを読むことである。さらに「その理由が中心文を導くのに適切かどうか」のように内容面からも確かめることで，上記思考様式は完結する。子どもたちには，メタ認知的活動の中で，この思考様式を意識させる必要がある。</p>	<p data-bbox="979 801 1406 840">< モニタリング (点検) ></p> <p data-bbox="979 842 1422 1099">「くわしい説明」「理由」「例」のどの観点を以て筆者が説明しているのかを読み取った上で，それは中心文を説明するのに適切かどうか，筆者の説明の仕方に対する自分の評価を点検している。</p> <p data-bbox="979 1135 1406 1173">< コントロール (修正) ></p> <p data-bbox="979 1176 1422 1424">中心文を伝えるためには，当初考えていたのとは別の観点の方が適切であると気付いたり，新たな内容を付加・訂正する必要性に気付いたりして，筆者の説明の仕方に対する評価を修正している。</p>

(2) 脳神経科学の知見を生かした開発教材

これまでの学習において筆者の説明の仕方を評価しようとする際，子どもたちは，文相互，あるいは段落相互の形式面でのつながりを確認し文章構成を捉えた時点で，その説明の仕方のよさを評価し，内容面のつながりにまで目を向けにくいという様相が見られた。その一因としては，内容面を評価するための手がかりをもつのが難しかったということが挙げられる。そのため，上記思考様式の有用性が十分実感されず，長期把持に至らなかったのではないかと考える。よって本単元の「思考力」である「筆者の説明の仕方を熟考・評価」するにあたっては，この論理の形式面に沿いながら内容面を吟味していくための手がかりをもたせる必要がある。

そこで，本時は「自分が納得する説明の仕方と教材文の説明の仕方を比較する学習」を行う。子どもたちは，自分が納得するためには「くわしい説明」「例」「理由」の3つの観点のうち，どの観点を説明が必要であり，その内容としてどんなことを書けばよいかという自分なりの説明の仕方を考えておく。それを手がかりとして教材文を読むことで，筆者の説明の仕方を内容面から評価できるようになる。このように「自分の知りたいことを納得させる内容かどうか」という文脈を上記思考様式に付加することで，筆者の説明の仕方を内容面から確かめようとする思考が促進され，思考様式の有用性が実感される（精緻化）。その結果，思考様式の長期把持が図られると考える。

3 単元計画（総時数 12時間）

次	主な学習活動と子どもの意識の流れ	思考様式活用のために
第一	<p>「ヤドカリとイソギンチャク」の組み立てを読み取る興味をもった内容を中心に初発の感想を書く。</p> <p>「ヤドカリとイソギンチャクの関係っておもしろいなあ。いろいろな実験が書いてあってよく分かったよ。文章を「はじめ」「なか」「おわり」に分ける。「はじめ」は1段落、「おわり」は12段落かな。「はじめ」は2段落までかもしれないよ。先に「なか」を読んでみたら分かるかもしれないよ。問いと答えの段落に目を付けて「なか」を3つに分け、文章の大まかな組み立てをつかむ。「なか」は、3つの「問い」があるよ。「問い」と「答え」に目を付けると、細かく分けることができそうだ。2段落は「なか」の最初の「問い」だよ。とすると、「はじめ」は1段落だけと考えたらいいな。</p>	<p>ねらう思考様式が獲得されていない子どもに対しては、本文の読解の適切な学習場面で、文と文との関係に立ち返って簡単な文例を示すことで、「まとめている」「まとめられている」とはどういうことかをつかむことができるようにする。</p> <p>ねらう思考様式を把持してはいるが使うための手がかりが不足している子どもに対しては、どんなことばに着目すれば「まとめている・まとめられている」を考えるための観点（「くわしい説明」「例」「理由」）を見付けられるか把握させておく必要がある。そのために、1段落の文と文の関係を捉える際に、「くわしい説明」「例」について、どのようなことばに着目すればよいかをおさえる。同様に6段落では「理由」について、それを指示することばをおさえるようにする。</p>
第二	<p>「実験」が「筆者の伝えたいこと」の説明になっているか確かめよう</p> <p>4, 5段落の実験は、ヤドカリが敵から身を守ることをうまく伝えているかどうか、確かめる。</p> <p>「なぜ～」と聞かれているから理由を書かないといけないよ。イソギンチャクを付けているとどうなるかが知りたいよ。</p> <p>4段落のイソギンチャクを付けていない時の様子があるから5段落のこともよく分かるんだな。</p> <p>8, 9段落は、ヤドカリがイソギンチャクを貝殻に移す方法と、はりでさされることがないことをうまく伝えているかどうか確かめる。【本時 7/12】</p> <p>私だったら、貝がらに移す移し方と、なぜ針で刺されないのかという理由を書くよ。</p> <p>貝がらに移す手順は詳しく書かれているよ。でも、9段落の内容は「はりでさされない」ことの説明になっていないよ。どうして「はりでさされない」のか分からないよ。</p> <p>11段落は、イソギンチャクに利益があることをうまく伝えているかどうか確かめる。</p> <p>ぼくだったら、ヤドカリの貝殻についてのイソギンチャクにどんないいことがあるかが分かる実験を書くよ。</p> <p>実験は書いてなくても、こういう書き方もできるんだな。すっきりとして分かりやすい書き方だな。</p> <p>小さなまとまりごとに、筆者の伝えたいことがうまく説明できているか評価する</p>	<p>ねらう思考様式をある程度自発的に使うのだが、段落相互の結びつきを曖昧にしか捉えられない子どもに対しては、「どのことについて詳しく述べているか」「この例を通して何を言いたいのか」「どの段落の理由を述べているか」などに着目させるようにする。</p>
第三	<p>「ヤドカリとイソギンチャク」の筆者の主張に納得がいくかどうか、自分の考えをまとめよう</p> <p>「なか」での3つの中心段落と「おわり」との関係性を評価する。</p> <p>ひとつ目の中心段落では、ヤドカリが助けられている。3つ目の中心段落はイソギンチャクが助けられている。</p> <p>2つ目の中心段落の内容は、「助ける・助けられる」とは関係ないのかな？</p> <p>2つ目の中心段落は1つ目のことを詳しくしているよ。だから必要だよ。</p> <p>でも、お互いに「助け合っている」というようには思えないよ。</p> <p>自分ならどのように書くか、「ヤドカリとイソギンチャク」の文章を修正する。</p> <p>文章全体を通しての筆者の主張と本論（3つのまとまり）とのつながりを評価する</p>	<p>ねらう思考様式をある程度自発的に使うのだが、段落相互の結びつきを曖昧にしか捉えられない子どもに対しては、「どのことについて詳しく述べているか」「この例を通して何を言いたいのか」「どの段落の理由を述べているか」などに着目させるようにする。</p>

4 本時の学習指導

(1) 目標

自分が納得する説明の仕方と比較しながら中心段落を吟味することで、9段落で「はりがとび出さない理由」を述べる必要性に気付くことができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識
<p>1 自分たちの考えた「納得する説明の仕方」を出し合い、本時の課題をつかむ。</p>	<p>問いの文(「ヤドカリがイソギンチャクのはりでさされることはないのでしょうか」)に対して ぼくだったら、実験を紹介して「はりでさされることはないことを伝えるよ。」 わたしは、どうしてはりがとび出さないかを説明して「だからはりはとび出しません」と書くよ。</p>
<p>自分の説明と比べながら筆者の説明の仕方を評価しよう</p>	
<p>2 「はりがとびださない」ことを伝える説明を読む。</p> <p>(1) 9段落が中心文に対して「詳しい説明」「理由」「例」のどの観点にあたるのか読み取り、自分の説明の仕方と比べる。</p> <p>(2) 9段落の叙述に対し「納得する」「納得しない」の立場から討論する。</p> <p>・ペア対話で</p> <p>・全体対話で</p> <p>3 このまとめりで、どうしても書く必要のある事柄はなにか話し合う。</p> <p>4 自作説明文「ヤドカリがイソギンチャクにさされない理由(仮題)」を読み、必要な事柄を選んで、教科書の文章を書き換える。</p>	<p>答えは9段落の最後の文「はりもとび出しません」だよ。9段落を読んでみよう。</p> <p>9段落は「はりがとび出さない」ことを詳しく説明しているよ。きちんと説明できているよ。</p> <p>でも、本当にこの説明でいいのかな?ぼくは、どうして「はりがとび出さないのか」が知りたいよ。</p> <p>イソギンチャクは「気持ちがいい」から、きっと、ヤドカリを刺そうとはしないんだよ。</p> <p>「いかにも気持ちよさそうに見える」だから、本当に気持ちいいのかどうかは分からないよ。</p> <p>どのようにしていっしょになるのか書いてあるところには、「はりが出る」とは書かれていないよ。だから、はりが出ないことが分かるよ。</p> <p>6段落に「イソギンチャクのしょく手は、何かがふれるとはりがとび出す仕組みになっている」とかいてあるのに、どうしてヤドカリは刺されないの?</p> <p>きっと、これまでの経験で、イソギンチャクはヤドカリに付くといいいことがあるのを知っているんだよ。</p> <p>じゃ、初めてヤドカリと出合ったイソギンチャクはさすの?それなら「はりでさされることはありません」というのはおかしい。</p> <p>イソギンチャクは本能でヤドカリのことを知っているんだ。</p> <p>それなら、そうに書く必要がある。文章にはそうは書いていない。</p> <p>はりにさされない「理由」を書いた段落があったほうがいいよ。でも、どんな理由があるのか分からないよ。</p> <p>へえ、ヤドカリがイソギンチャクのツボを押さえるとイソギンチャクは力が抜けてしまうのか。自然の世界っておもしろいな。</p> <p>それなら、「イソギンチャクの体をつついたり~」のところに、「ツボを押さえると~」と書き入れよう。</p>

脳神経科学の知見を生かした教師の働きかけ

自分が納得する説明の仕方と教材文の説明の仕方と比較する学習

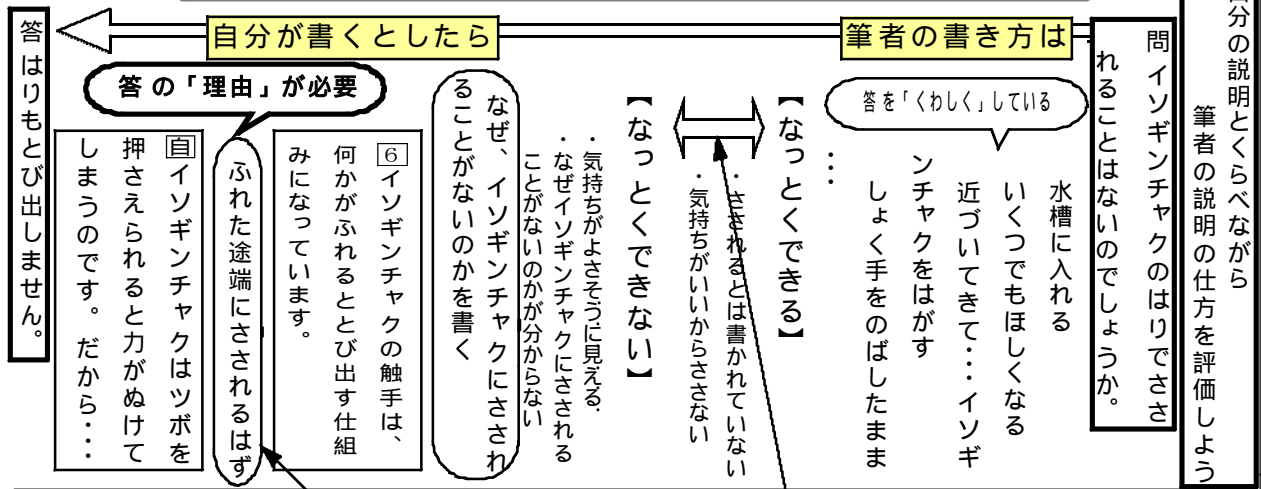
思考様式に「自分の知りたいことを納得させる内容かどうか」という文脈を付加し、その活用を図る学習

7段落から9段落の中心文は「はりもとび出しません。」の一文である。本時は、その9段落の叙述が、中心文を説明するための適切なものとなっているかどうかを確かめていく。おそらく子どもたちは、「9段落は、中心文を詳しく説明している」と説明の仕方の形式面に着目して一旦納得するであろう。

そこで、子どもたちが事前に書いた「自分が納得する説明の仕方」と教材文とを比較する。この比較を通し、この説明の仕方が、6段落の叙述「イソギンチャクのしょく手は、何かがふれるとはりがとび出す仕組みになっている」を納得させる説明にはなっていないことに気付いていく。これが内容の吟味である。当初の形式面の吟味に加え、この内容面での吟味を行うことで、中心文とその他の文の関係について、より深く読み取ることができるようになる。さらに、中心文が他の文を含むかどうか確かめる際には内容面の整合が不可欠であることが強く意識化され、思考様式の定着につながると考える。

本時の板書構造

【思考様式】中心文が他の段落をまとめているかどうか確かめる



<コントロールを促す働きかけ>

9段落の説明が「はりがとび出さない」ことを伝えるのにふさわしいと納得していた子どもに対し、討論の中で焦点となる「何かがふれるとはりがとび出す仕組みになっています」との整合性を考えさせ、矛盾点に気付くようにする。

<モニタリングを促す働きかけ>

中心文を説明するのに必要なのは「くわしい説明」なのか「理由」なのかを、自分なりの説明の仕方と比較したり、討論を通して友達の考えに触れたりしながら吟味していくようにする。

【評価】方法：ノート及び発言

B：イソギンチャクのはりがとび出さない「理由」を教材文に書き加えている。

A：Bに加え、その「理由」を書かなければならない根拠となった叙述を示している。

B例

(～いかにも気持ちよさそうに見えます。)それは、ヤドカリが、イソギンチャクのツボをおさえ、力がぬけたからです。だからイソギンチャクは、はりを出すことができないのです。

A例

～それは、ヤドカリが、イソギンチャクのツボをおさえたからです。だから、ほかの魚やエビがふれればしょく手を出すイソギンチャクでも、ヤドカリにはりを出すことができないのです。